

第5学年国語科学習指導案

日時 平成21年10月2日(金) 5校時

児童 5年3組 男子16名 女子12名 計28名

指導者 藤田 聖子

1 単元名 自分の考えをまとめ、本の魅力を伝えよう

教材名 「わらぐつの中の神様」(物語)

2 児童と単元について

(1) 児童について

本学級の児童が、今年度、文学的文章の学習において学習した読みの方法は次のとおりである。「登場人物の心情や人物像、考え方を叙述と結び付けて読む」ことに関しては、会話文や行動描写を基にして読むという方法、「作者の述べたい内容について考えながら読む」ことに関しては、主人公の変容とその理由を基にして読むという方法である。

今年度行った国語に関する意識調査では、「物語や説明文の学習の仕方がわかりますか。」という設問に対するプラス傾向(よくわかる、だいたいわかる)は25人で86.2%だった。また、読みの方法の認識についてみても、文学的文章については、「会話文、行動をもとにして読む」「場面を比べて読む」「設定をとらえる」「挿し絵をもとにして読む」「登場人物の気持ちの変化を読む」「人物関係図をもとにして読む」という方法について、70%以上の児童が知っていると答えている。これらのことから、本学級は、読みの方法を意識して読み深める児童が多いといえる。反面、マイナス傾向の児童も4人いて、個人差が広がっているということが言える。また、読みの方法を知っていても、どのように使うのか分からない児童も多いと考えられる。

読書については、図書室によく通っている様子が見受けられ、隙間時間にはさっと本を取り出して読み始める児童が多いことから、関心が高く、好んで行っていることがわかる。しかし、学習漫画や図鑑、軽い内容の本に偏って読書をする児童もいる。

これらのことから、本単元では、既習の読みの方法も使いながら新たな方法を学習すること、さらに学習後の読書活動へもつなげていく活動の工夫が必要であると考ええる。

(2) 単元と教材について

新学習指導要領では、本を読み、優れた叙述について自分の考えをまとめ、推薦文に書きまとめる活動が位置付けられた。本単元「自分の考えをまとめ、本の魅力を伝えよう」は、読み取ったことを読書郵便に書き表すという言語活動を通して、あらすじや主題、優れた叙述について自分の考えをまとめる力をつけることをねらう。そのために各段階で行う活動を次のように考える。

「自分の考えをまとめる」ことについて

見通す段階・・・読書郵便に書く要素の分析とそれを読み取るための読みの方法の確認

深める段階・・・設定・あらすじ・主題を読みの方法を使って読み取ること

広める段階・・・獲得した読みの方法を使って、他の文章を読み取ること

「本の魅力を伝える」ことについて

見通す段階・・・読書郵便のモデル提示、推薦の言葉についての学習

深める段階・・・読み取ったことを表す推薦の言葉を書きためること

広める段階・・・中心教材の読書郵便を書くこと、交流すること

自分が選んだ本の読書郵便を書くこと

読書郵便を書く活動を通して、今まで学んできた読みの方法の定着を図ること、紹介から推薦という言語活動の系統化も図ることができると考える。さらに、友達の推薦する本に興味をもち、手に取ることで、

読書生活が広がっていくことも目指したい。

中心教材「わらぐつの中の神様」は、地方の雪国に暮らす家族の温かい心の通い合いを描いた作品である。人や物についての叙述が、比喩や修飾語を使いながら詳しく繊細に表され、登場人物の心情を豊かに想像することができる。物語の構成は、現在―過去―現在という展開である。このことは、読者が「マサエ」に寄り添って物語を読み進めることで、自分のこととして物語を読んでいくことができるという効果がある。さらに、過去の部分だけでは弱い主題を訴えかける力を、現在の部分を入れることで強めるという効果もあるだろう。また、個性豊かな登場人物、わらぐつ・雪げたという小道具の味わい、印象的な台詞、比喩や修飾語の豊かさ、あっと驚く仕掛けなど、様々なおもしろさを感じ取ることができる作品である。物語中のおみつさんは働き者で思いやりがあり、純粹であること、大工さんはさわやかで頼もしいことから、児童は、登場人物に共感的な思いをもちながら読み進めていくことができると考えられる。また、1の場面では、わらぐつを「みったぐない」と言い、神様を「迷信でしょ」と言っていたマサエが、3の場面では、「雪げたの中にも神様がいるかもしれないね。」というように変容していく姿は、読み進めていく児童にとって自分のことのように考えられるであろう。マサエをこのように変容させた「いい話」とはどのような話なのか、考えることで主題にも迫っていくことができる。「心をこめて作ったものには、神様が入っている」という一文は本教材の主題を表したものであり、作者の述べたいことを探る大きな手がかりとなる。

(3) 指導について

ア 付けたい力と読みの方法 【付けたい力】 読みの方法

【作者の述べたい内容について考えながら読む。】

中心人物の変容と、その理由を基にして読む。

・あらすじ

読みの方法「中心人物の変容と、その理由を基にして読む」については、あらすじをとらえるために、物語を一文で表すという手立てを組む。

児童は、昨年、4年生の教材「三つのお願い」において、物語を「誰が（中心人物）、何によって（事件・出来事）、どうなった（変容した）話」と一文で表す学習を行っている。本単元では、昨年学習した一文をより詳しくし、「どのような誰が、どのような何によって、どのように変わった話」と一文であらすじを表すこととする。

一文に表すために、中心人物の変容を事件の前後で比べ、詳しく読み取ることによって、変容のきっかけとなった出来事についても強い興味をもたせていけると考える。また、物語を一文で表すことで、登場人物の心情の変化や成長を読み取ることになると共に、物語を部分的にはなく、大きくとらえる読み方を経験させることができる。

さらに、あらすじから主題を考える学習にもつなげる。マサエを変容させた「いい話」とはどんな話であるかを一言でまとめることは、主題を読み取り、それを表現することであると考えている。

読み取ったあらすじや主題は推薦の言葉として端的に表し、読書郵便に位置づけさせる。

イ 単元構成の工夫について

① 指導内容の重点化について

重点とする指導内容は、本のよさを読書郵便にまとめて伝えるという目的に沿って、あらすじや主題を読み取り、読み取ったことを表現できる力を付けさせることである。あらすじや主題を読み取るためには、前述のように一文に表すという手立てをとる。

読み取ったことを表現するために重点として指導する内容は、推薦の言葉に表すということである。推

薦の言葉にはいろいろな分類があるが、今回は、「あらすじや表現などで物語を特色付けて強調する」表現を入れるようにさせる。このことで、自分は読み取ったことをどのような推薦の言葉として表すのか、友達はこの部分からこの言葉を使ったのかという新たな思考が生まれると考える。

これらの指導を通して、文章を読み取り、考えをまとめ、表現していく力が付くことをねらう。

② 身につけた力を活用する言語活動

本単元では、中心的な言語活動として、「本を読んで推薦の文章を書く」ことを設定する。推薦の方法としては、「読書郵便」に取り組む。読書郵便を書く目的は、自分の読み取ったことを伝え、本を読んでみるように薦めること、相手は、自分が本を薦めたい人を選ぶこととする。

読書郵便に盛り込む内容は様々考えられるが、今回はあらすじ・主題・推薦の言葉を必ず入れることとする。児童は、昨年度、本を紹介する言語活動として「本の帯作り」に取り組んでいる。本の帯の要素として「あらすじ、人柄、関わり、出来事、メッセージ」を取り上げ、それらを短い言葉で表現を工夫しながら書き表すことを学習した。同じ要素を文章として表し、その上で評価語彙である「推薦の言葉」を付け加え、はがきに書き表したのが「読書郵便」である。読書郵便のよさとしては、相手意識をしっかりとてること、短い文章の中で読み取ったことを表せることが考えられる。

帯に表す要素も推薦の言葉に表す要素も「あらすじ、主題」であり、共通する要素である。つまり、これは物語文を読んでいく場合の観点となる。これらを読み取るために会話や行動、人物の変容、象徴といったことに着目して考えていく。学んだ方法を使って文章を読み取れば、その読み取ったことをいろいろな様式で、目的や相手に合わせて表現することができるということを自覚させたい。

単元を通して行う言語活動については、読書郵便を書くことに向けて、読書生活の振り返りをし、新たに紹介したい本を探すための並行読書の活動を設定する。いずれも中心教材との関連から、「人物の生き方考え方について考えさせられる本」という指定をし、単元を通して継続的に言語活動を行うこととする。このことで、本を選ぶ力、読み取ったことを表現するという力を繰り返しつけていくことができる。読み取ったことを表現し、それを交流することは、読書の楽しみの一つであり、今後の読書生活を豊かにしていく一助となると考える。

③ 補助教材の活用

本単元では、補助教材として読書郵便のモデル、獲得させたい推薦の言葉が含まれている広告文を用意する。

補助教材活用の意図は、単元のゴールの姿をイメージさせること、推薦の言葉の語彙を増やすことである。また、見通す段階では、昨年度、紹介文として取り組んだ本の帯を使い、今回取り組む読書郵便にも使える点、さらに発展させる点を明らかにさせる。その上で、読書郵便を書くために必要な要素を整理し、深める段階の読み取りにつなげていく。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○推薦したい本を見つけて読み、そのよさを他者に伝えようとしている。	・推薦したい本を見つけて読み、そのよさを他者に伝えようとしている。
読む能力	◎中心人物の変容とその理由を読み取り、作者の述べたい内容について自分の考えをまとめることができる。 （読むことエ） ◎考えたことを交流しあい、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 （読むことオ）	・中心人物の変容とその理由から作者の述べたい内容について自分の考えをまとめている。 ・考えたことを交流しあい、自分の考えを広げたり深めたりしている。

言語についての知識・理解・技能	○現在—過去—現在という文章構成や表現の工夫について考えることができる。 〈言語事項オ（ア）〉	・文章構成や比喻や修飾語、場面設定などの表現の工夫に気付いている。
-----------------	--	-----------------------------------

4 単元の指導計画と評価規準（10時間）

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解
見通す	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの読書生活の中から登場人物の生き方について感動した作品を紹介しあう。 ・学習方法を振り返る。 ・本を推薦するために読書郵便を書くというめあてをもち、読書郵便に書く要素を決める。 ・学習計画を立てる。 ・推薦の言葉について学習する。 ・推薦したい本を選ぶ活動を始める。 	読書郵便に興味をもち、本を推薦することに進んで取り組もうとしている。 (ノート・発言)	既習の方法を思い起こし、話し合いに参加しようとしている。 (ノート・発言)	推薦する言葉の語彙を増やしている。 (シート)
深める	3 4 5 6	<p>3 「わらぐつの中の神様」を読む。 設定をとらえる。 作品の仕掛けを探して交流する。</p> <p>4 「マサエ」の変容前と変容後の考えをとらえる。</p> <p>5 昔話を「どのような話」とまとめる。</p> <p>6 あらすじを完成し、人物の変容から主題について考える。</p>		<p>3 設定をとらえ、文章構成、表現の特徴などの作品の仕掛けについて効果を考えている。 (ノート、発言)</p> <p>4 会話や行動に着目して、心情や考え方を読み取っている。 (発言、シート)</p> <p>5 会話や行動に着目して、心情や考え方を読み取っている。 (発言、シート)</p> <p>6 中心人物の変容から主題について考えている。 (発言、シート)</p>	<p>3 文章構成や表現の工夫に気付いている。 (ノート、発言)</p>

広める	7	「わらぐつの中の神様」の読書郵便を書く。推薦の言葉を選んだ理由を書く。		読み取ったことをあらすじ、主題を入れて書き表し、適切な推薦の言葉を考えている。 (読書郵便シート)	
	8 本時	読書郵便について話し合い、よりよい推薦の言葉について考える。		読み取ったことを推薦の言葉に表し、その理由を書いている。 (発言、シート)	
	9	自分の選んだ本の読書郵便を書く。推敲し、完成する。		あらすじ、主題を読み取り、推薦の言葉を入れて読書郵便を書いている。 (読書郵便)	
まとめる	10	読書郵便を読み合い、共通していることや相違していることについて話し合う。学習を振り返り、分かったことをまとめる。	学習したことを振り返り、読書生活に生かそうとしている。 (ノート)		

5 本時の指導 (8/10)

(1) 本時の目標

読書郵便の書き方について、友達のお考えのよさを話しあうことを通して、自分の読み取った話の中心(あらすじ)や主題をすいせんの言葉に表すことができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

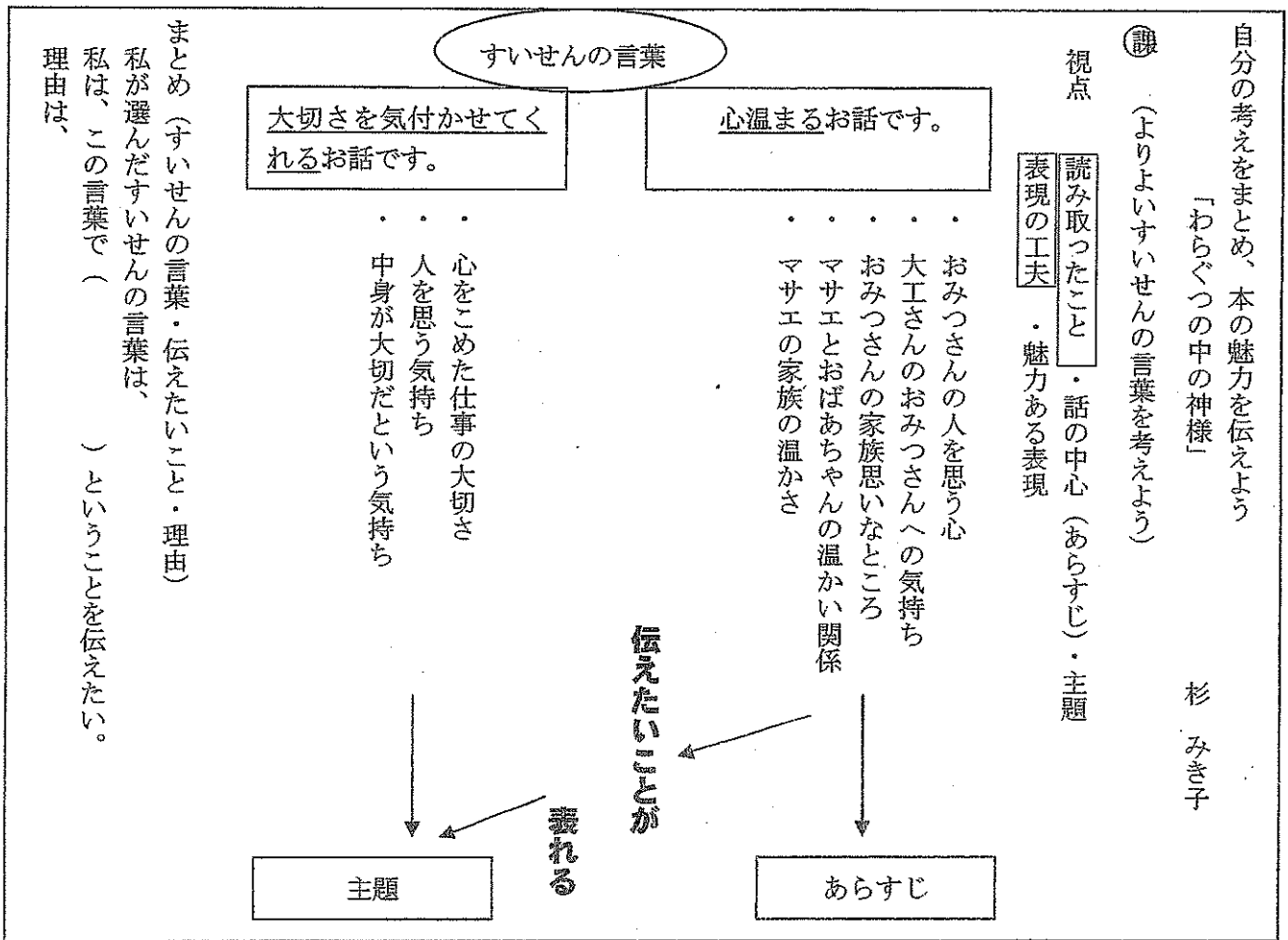
観点	具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する児童への手立て
読む能力		自分の読み取ったことをすいせんの言葉に表し、理由を2つ以上書いている。 例) Bに付け足して また、家族のことを思って、仕事が終わった後に自分でわらぐつを作ったということからも、おみつさんの家族を大切に思う気持ちが分かる。と考える。	自分の読み取ったことをすいせんの言葉に表し、その理由を書いている。 例) 私が選んだすいせんの言葉は、「心温まるお話です。」 私は、この言葉でおみつさんのお話を大切に思う心を伝えたい。 その理由は、おみつさんがわらぐつをはく人のことを考えて、しっかりしっかり編んでいったことが人を大切に思うということだと考えるからだ。	グループや全体での話し合いの際に、友達のお話を聞きながら、読み取ったことを想起させる。話し合いの内容や板書をもとにして、考えを書かせる。

(3) 展開

段階	学習活動 ○発問 ・期待する児童の反応	教師の関わり方 ・留意事項 ◎評価
見通す 5分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">よりよいすいせんの言葉を考えよう。</div> <p>3 読みの視点を確認する。 読み取ったこと ・話の中心 (あらすじ) ・主題 表現の工夫 ・魅力ある表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習をすることで、次の読書郵便を書く場合に役立つということを確認する。 ・自分の考えたすいせんの言葉を変えることが目的ではなく、自分の思いが表れているかということを考える学習であることを確認する。 ・見通す段階でとらえた読書郵便の要素と書き方を読みの視点とすることを確認する。
深める	<p>4 課題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>(1) 読書郵便の例について話し合う。 ○2つの読書郵便を読んで、気がついたことを話しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋だけ書いてあって、主題が伝わらない。 ・どんな話なのかがよく分からない。 ・すいせんの言葉が「悲しいお話」では、この物語の主題が表れていない。 ・すいせんの言葉に物語の主題が表れている。 ・主題がよく分かる。 ・構成が工夫されている。 ・問いかけの文がある。 <p>(2) 推薦の言葉を検討する。 ○2つの例のうち、よいと思う推薦の言葉はどれですか。そのわけも考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心温まるという言葉がよい。 <p>理由は、この物語は、おみつさんと大工さんのわらぐつを通したふれあいや、おばあちゃんとマサエの昔話を通したふれあいが描かれているから。</p> <p>理由は、このお話には、おみつさんの家族思いのところ、大工さんのおみつさんに対する気持ち、おみつさんのはく人を思って作った心、いつも買ってくれる大工さんへの気持ちなど、温かい心がたくさん描かれているから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切さを気づかせてくれるという言葉がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書郵便の2つの例を比較させる。それぞれのよさや不足している点に気付かせる。2つを比較することでよりよい読書郵便に必要なことを確認する。 ・すいせんの言葉のよさについての発言を取り上げ、詳しく検討していくこととする。 読み取ったことが表れているのがよいすいせんの言葉であることを確認する。 ・前時に書いた読書郵便からねらいに合った2つのすいせんの言葉を選び、提示する。「心温まるお話」「大切さを気付かせてくれるお話」 ・友達の書いたすいせんの言葉を検討することを通して、自分の書いた言葉を見直し、よりよいものにすることをねらう。 ・すいせんの言葉には、自分が一番伝えたいと思ったことを表すということを確認し、それぞれのよさを考えられるようにする。

	<p>理由は、大切なことは、人を思いやる気持ちだということがこの物語の主題。そのことをマサエや私たちに、昔話を通して教えてくれる物語だと思うから。</p> <p>理由は、見かけが大事だと思っていたマサエが、おばあちゃんの話聞くことによって見かけだけではなく中身が大事だということに気が付いたという話だから。</p> <p>5 考えを交流する。 (1) グループで交流する。 (2) 全体で交流する。</p> <p>6 自分の考えをまとめる。 ○ 学習したことをふまえて、もう一度、自分のすいせんの言葉を見直しましょう。そして、選んだ理由を書きましょう。 ・私が選んだすいせんの言葉は、「 」だ。 私は、この言葉で（ ）ということを伝えたい。 その理由は、～。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを交流することで、自分の考えを確かなものにしたたり、友達の考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 ・グループでの交流は、自分の考えを1時間のうちに必ず1人1回は話す機会を確保することもねらう。 ・全体での交流は、すいせんの言葉のよさを話し合う中で、物語に戻り、読み取ったことを確かめることもねらう。 ・話し合いをふまえて自分のすいせんの言葉を書き直すかどうか考えさせる。書き直すことが目的ではないことを再度助言する。 ◎よりよいすいせんの言葉を考え、その理由を書き表すことができたか。 (ノート、発言) ・選んだすいせんの言葉、伝えたいこと、理由の3段落構成で書かせる。 ・理由を書く際には、話し合っただけで自分の考えが深まったことを書けるとよりよいことを助言する。 ・モデルに提示したすいせんの言葉だけがよいというようにしないため、みんなと違う言葉を考えている児童も認めるようにする。
<p>ま と め る 5分</p>	<p>7 今日の学習について振り返る。 ○今日の学習で分かったことをまとめましょう。</p> <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題とまとめの確認をする。本時の学習と単元のめあてのつながりを確認する。 ・今日の学習は有効だったか確認する。

(4) 板書計画



「わらぐつの中の神様」ワークシート 3

名前

今日の学習で分かったこと

自分の考えたすいせん言葉を見直ししましょう。
○すいせん言葉、伝えたいこと、理由を書きましょう。

理由

よいと思ふすいせん言葉

視点